

平成 20 年度 茨城県立 猿島高等学校 自己評価表

目指す学校像	(ア) 明朗にして情操豊かに、心身共に健康であり、積極的で活気に満ちる生活を喜び、かつ創造する人間の教育を目指す。 (イ) 平和で民主的な文化社会建設の担い手として、世界的視野に立ち、使命感にあふれる地域振興のリーダーを育成する。 (ウ) 校訓「感恩」「創造」「自立」が実践できる人間の育成。特に、生かされていることに感謝し報いることができる心を養う。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点的目標	達成状況
学力に関しては、チームティーチングや習熟度別学習を取り入れたきめ細かな教育活動を通して基礎学力の向上に努めたい。	ア 基礎学力の向上を図る。	生徒一人一人の能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫により、各教科・科目の興味・関心を高めるよう努める。 チームティーチングや習熟度別授業の充実を図る。	2
スクールカウンセラーを導入して不登校や自虐的傾向の生徒などのフォローにあたりたい。また、交通事故防止や地域の不審者からの被害の防止、児童虐待や人権擁護に力を注ぎたい。	イ 基本的な生活習慣の確立を図る。	規律ある学校生活を送るため、ホームルーム活動や学年集会、学校行事等を通して、正しい判断による自己表現力と豊かな人間関係の醸成に努める。	1
	ウ 教育相談の充実を図る。	心の健康を大切にし、生徒の心の悩みを解決するため、教育相談の充実を図る。	2
部活動では際立った成果が得られていないので、結果を残せるよう一層の努力と工夫を重ねたい。	エ 特別活動の活性化を図る。	部活動に意欲的に参加し、活動が継続できるように顧問教師と部員及び部員相互の望ましい人間関係の醸成に努め、部活動の活性化を図る。 HR活動・生徒会活動・学校行事の活性化を図る。	2
先進農家や北海道での農業体験実習、建設現場見学及び実習を通して、望ましい職業観や勤労観の養成に努めた。 開放講座として、食品加工講座（食品加工を楽しむ）、また、公開講座として、フラワーアレンジメント講座・パン作り講座を開講し、さらにヤマユリ里親募集等、地域との連携・交流に努め、地域貢献を図るとともに、地域からの信頼確保に努めた。	オ 進路指導の充実を図る。	人間としての在り方生き方を学び、進路意識を高める。 先進農家や北海道での農業実習、建設現場等でのインターンシップを通じ、望ましい職業観や勤労観を養成し、生徒の進路意識の高揚に努める。	1
	カ 特色ある施設・設備を生かした地域との連携交流を図る。	農業関連学科特有の施設・設備を最大限に生かして、食の安全安心に係る、特色ある開放講座や体験講座を開講し、地域との連携・交流に努め、地域貢献を図るとともに、地域からの信頼を確保する。	1

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度（学期）への主な課題	
教務部	地域や生徒の実態を把握し、特色ある教育課程の編成に努める。	中学校・地域との連携を図る。		1	1	魅力ある総合学科構築のための教育課程を見直す。 TTや習熟度別学習に力を入れたきめ細かな教育に努める。
		生徒の多様な進路に応じた教育課程の編成を行う。		1		
		3年間を通じた到達目標・指導計画の確立を図る。		1		
	魅力ある学校生活を目指しながら、授業の量的確保と質的充実を図る。	行事等の能率的な運営を図る。		1	1	総合学科における授業の確保と教科内補充や填補を検討する。 授業の開始時刻の厳守に努める。
		授業終始時刻の厳守に努める。		1		
		出張・年休等における授業の確保（振替）に努める。		1		
	自主的学習意欲を高める効果的な学習指導法の研究実践を図る。	各教科と連携を密にし、生徒の実態に即した年間指導計画と、その計画に沿った学習指導ができるように努める。		1	2	研究授業の実施に努める。 教科間の連携を図り、分かる授業の実施に努める。 生徒が主体的に家庭学習に取り組む方策を検討する。
		分かる授業の実践及び授業の創意工夫ができるように研究授業の実施に努める。		2		
	学科の特色を生かし、充実した実験実習を展開し、学習意欲の向上を図る。	学習意欲の低い生徒・学力の低い生徒への計画的な指導を行う。		1	2	シラバスの進化・発展と生徒の主体的な授業参加に努める。 基礎学力テストデータの有効利用に努める。 長期休業中の課外授業の展開を検討する。 資格試験の充実を図る。
		学習に取り込む姿勢や学習意欲を高める指導の工夫改善を図る。		2		
	職員研修を推進し、資質の向上を図る。	人権教育等についての教職員研修会を充実させる。		1	1	職員のニーズにあった研修会の実施と情報の共有化に努める。
		研修の成果や情報を教員間で共有できるように努める。		1		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立をはかる。	週番活動並びにさわやかマナーアップ運動を展開し、正門立哨指導であいさつの励行に努める。		2	2	指導が難しい生徒の指導体制づくりに努める。
		服装頭髪指導を定期的に行い、きちんとした身だしなみを身につけさせる。		2		
	交通安全教育の充実を図る。	交通立哨指導を春・と秋の交通安全運動期間と毎月交通安全の日を実施し、事故防止に努める。		2	2	家庭との連携を密にした交通安全指導を図る。
		自転車点検を定期的に行い、不良箇所の改善と安全運転を呼びかける。		2		
		原付通学者に対して許可試験と実技講習会を実施し、交通ルールとマナーの確認並びに運転技術の向上に努める。		1		
		交通講話を開催し、生徒の安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。		2		
	教育相談を充実し、生徒理解を深める。	二者面談を行い、生活状況把握や悩み事等の相談の機会を持ち、生徒理解に努める。		2	2	スクールカウンセラーの年間配置と活用による、生徒の悩みの軽減を図る。
		三者面談を行い、家庭との連携を深める。		2		
		スクールカウンセラーを活用し、生徒の心の悩みを解決する。		1		
		カウンセリング教職員研修会を行い、生徒理解の深化を図る。		2		
	問題行動の未然防止に努める。	校内巡回指導を行い、生徒の状況把握と問題行動の未然防止に努める。		2	2	携帯電話等による誹謗中傷が発生しないよう、情報モラル教育の推進をする。 危機管理体制の強化を図る。
		校外巡回指導を行い、地域関係機関と連携し、問題行動の未然防止に努める。		2		
携帯電話やインターネットによる非行・被害防止を図るため、安全教室を開催し、生徒への啓発活動の充実を図る。			2			
不審者や校外での問題発生時に迅速に対応できるよう努める。			2			
判定基準	1：大変良くできた 2：良くできた 3：やや不十分 4：不十分					

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	番号	評価	次 年 度 (学 期) へ の 主 な 課 題
進路指導部	人間としての在り方生き方の指導の一層の充実。	教育活動全体を通じたガイダンス機能の充実。		1	すべての生徒に入学前から計画的に進路選択能力を育成させるためにどのようにキャリア教育を進めるのか。
	望ましい職業観・勤労観の形成と主体的な進路選択能力の育成。	自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する能力や態度を育成する指導の工夫。		1	
		進路相談の計画的・継続的な実施。		1	
	進路に対する理解と協力を得るための保護者への啓発。	保護者への継続的な進路啓発活動の実施。		2	
保健厚生部	心身の健康に対する意識を高める。	保健便りや保健ニュース等の掲示により、情報を提供する。		2	講演会の内容について、効果が得られるように工夫する。
		教科「保健体育」と連携し、防止教室や性に関する講演会を実施する。		2	
	校内環境の整備・充実を図る。	委員会の活動内容を考え、環境美化活動の活性化に努める。		2	ゴミの分別や環境美化について、委員会の活性化を図る。
		ゴミ分別を徹底できるように工夫する。		3	
		校内美化日を計画し、学習環境を整備する。		2	
	安全対策の強化に努める。	緊急対策マニュアルを周知徹底する。		3	緊急時の対処方法等の実践力を育てられるようにする。
危機意識を高め、安全確保につながるよう避難訓練の内容を工夫する。			2		
図書部	施設設備の充実を図る	書架やパソコンの更新(図書室)。		2	パソコンの更新を行い、図書の貸出手続きが円滑に行えるよう努める。 図書室利用について、生徒のマナー向上に努める。
	図書室の資料の充実および整理に努める。	職員生徒の希望図書の購入。		1	
		パソコンによる図書の登録、バーコード貼付。		1	
	読書に興味関心を持たせるような指導に取り組む。	校内読書感想文コンクールの実施。		1	
		上記コンクール入選者の表彰および入選作品集の作成。		1	
	図書委員会活動の活性化に努める。	カウンター作業や書架の整理。		2	
		各種統計の作成。		2	
	図書室の広報活動に取り組む。	図書館報、図書館だよりの発行。 新規購入図書や各種統計の掲示。		1 1	
渉外部	保護者の各行事への参加意欲の向上を図る。	各行事に工夫をこらし、参加保護者の意欲向上をはかる。		2	各校務部の協力を得てPTA行事への参加意欲向上を目指す。
	継続的な重点行事を掲げその充実を図る。	収穫祭のPTA販売の充実を図り、その提案をする。		1	収穫祭PTA販売の充実を重点行事に掲げたが、次年度は同一行事を行ってもそのコスト削減の取組も始めたい。
	教職員と保護者の連携を密にし、生徒の健全育成と成長を支援する。	PTA活動を活性化させ、PTA総会や支部PTA、PTAだよりなどで保護者と教職員間の連携を図る。		2	PTA活動での教職員と保護者の連携の大切さとその支援に取り組むたい。
特別活動部	生徒会活動を活発に行うようにする。	「さわやかマナーアップ」運動の手伝いとして、朝の立哨指導に参加させる。		1	生徒会役員を支援し、主体的に活動できるようにしたい。
		学校行事の運営に積極的に携わる。		2	
	望ましい集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	収穫祭のポスターを近隣中学校や商店街に配布する。		1	校外活動にも積極的に参加できるようにしたい。
		校外のボランティア・体験学習に積極的に参加させる。		2	
部活の推進をはかる。	各々が、年間を通して継続的に活動できるようにする。		2	少人数でも活動できる体制を作る。	
農場部	勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感得させる。	先進農業研修・現場実習・北海道農業体験学習等でのインターンシップを通して勤労観・職業観を養成し、働く喜びを感得させる。		2	総合学科に対応した農場運営の見直し。
	施設・設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用をはかる。	圃場及び実験室を充実させ、生徒一人一人の能力に応じた分かりやすい・魅力ある実験・実習を通し、興味関心を高め、基礎的な知識・技術を習得させる。		2	
	プロジェクト学習を充実し、学校農業クラブ活動を強化する。	系統的プロジェクト学習の充実した展開をはかる。また、課題研究は、生徒一人一人の能力に応じた適切な指導に留意する。資格取得希望者の拡大を図る。		2	
事務部	会計の効率的で適正な執行に努める。	教育活動が円滑に進められるよう効果的な予算執行に努める。		1	授業料納期限内納入率は昨年度より1.8ポイント向上し、未納額も縮小した。引き続き学年・担任との連携を維持して納入率向上を目指す。 電気水道使用量は前年より減少した。節約に向けた取り組みを継続していく。 校舎等定期点検結果を活用して計画的な改修を行い、施設設備の安全性を確保する。
		学年・担任との連携を深め、授業料等の期限内納入率を向上させる。		1	
		節電・節水に努め予算の削減を図る。		1	
	開かれた学校づくりをめざす。	来校者や電話対応の接遇向上に心がける。		1	
		学校行事等の広報に努める。		2	
施設、設備等の適正な管理に努める。	施設・設備が安全に使用できるよう適切に管理する。		1		
1 学 年	問題行動を流さず、きめ細かく指導することにより、けじめのある行動を取れるようにする。	服装髪等の指導を徹底する。		2	頭髪指導に関して学年全体で粘り強く指導にあたった。服装や時間を守る指導についてはさらに徹底することが必要である。 学年職員による家庭訪問や中学校訪問などにより、きめ細かな指導ができたが、継続して生徒・保護者との個人面談等を重ね、更なる生徒理解・保護者理解に努める。 自己の責任の重要性の認識や、保護者の信頼や協力を得るためにはどうしたらよいか方策を考えていく。 教師間の共通理解を図りながら今後も生徒理解に努める。
		時間や約束を守る指導を通して自己の責任の重要性を認識させ、学校生活の充実と向上を図る。		3	
		生徒理解に努め、どの生徒、保護者にも公平な対応を心掛け、保護者の信頼や協力を得る。		2	
	自分の長所、可能性に気づかせ、健康で明るく充実した学校生活を送らせる。	各教科・各校務分掌・他学年・保護者等との連携を図り、生徒理解に努める。		2	学年内や保護者との連携は密であった。この継続と、他学年とのさらなる連携を図る。
	社会の一員として必要な資質の育成に努める。	基本的な生活習慣を確立させ、対人関係スキル等の向上が図れるようホームルーム、道徳の時間、学年集会、面談等を通して指導する。 ホームルームや進路講演会、先進地視察などの機会を通して、将来の生き方について考えさせる。		2 2	スタート時に比べて落ち着いて生活できるようになってきたが、さらに継続して指導していくことが必要である。 あいさつなどの基本の指導や進路学習の充実等を継続し、社会の一員としての将来をより具体的にさせる。 LHRの年間計画を見直す。
判定基準	1：大変良くできた 2：良くできた 3：やや不十分 4：不十分				

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	番 号	評 価	次 年 度 (学 期) へ の 主 な 課 題	
2 学 年	問題行動を流さず、きめ細かく指導することにより、けじめのある行動を取れるようにする。	服装頭髪等の指導を徹底する。		2	2	継続して、問題行動を流さず学年で細かく指導することに務める。
		時間や約束を守る指導を通して自己の責任の重要性を認識させ、学校生活の充実と向上を図る。		2		
		ホームルーム、面談等を通して生徒理解に努め、保護者の協力を得ながらけじめのある生活を送れるよう指導する。		2		
	自分の長所、可能性に気づかせ、健康で明るく充実した学校生活を送らせる。	修学旅行等の学校行事や部活動を通して、よりよい人間関係を築き充実した高校生活を送らせる。		2	2	引き続き、関係職員と生徒についての情報交換を積極的に行うことで、一人一人の長所を伸ばし進路実現につなげる。
		教科担任や関係職員と生徒についての情報交換を積極的に行い、面談等を通して一人一人の長所を伸ばすよう努める。		2		
	進路実現のために必要な援助を積極的に行い、無駄のない生活を送らせる。	ホームルームや学年集会において、将来の自分探しの機会を与え、自己を見つめさせる。		2	2	進路決定率100%を目指して、現実をしっかりと認識させながら、生徒の希望を実現できるよう努める。
進路講演会や進路分野別ガイダンスなどの機会を通して、将来の生き方を考えさせることで、今何が大事かということに気づかせ実行させる。			2			
3 学 年	基本的生活習慣の確立。	けじめのある生活に心掛け、潤いのある人間関係を築く。		2	2	就職・進学率100%を達成できたことは評価できる。来年度、経済状況の悪化による求人数の激減が予想されるので十分な対応が必要である。
	基礎学力の向上。	授業を大切に、遅刻・欠席・欠課時数など自己管理の徹底を図り、責任の重さを認識させる。		2		
	自己の確立。	将来を真剣に見つめ、進路決定に全力を注ぐ。		1		
国 語 科	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育てる。	漢字検定、基礎学力テストなどを活用し、基礎学力の向上に努める。		1	1	DVD等の視聴覚教材を購入してもらい、積極的に活用する。 漢字検定については計画的・段階的な指導を行い、2・3年生の受験者を増やすように努める。
		話すこと、聞くこと及び書くことの指導は相互の関連を図りながら行う。		1		
	互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝える能力を高める。	作文指導に力を入れる。		1		
		スピーチなど体験的言語活動を積極的に取り入れる。		2		
思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。	段階的に物事を考える指導の充実を図る。		2			
	文学的作品に触れ、言葉に対する感覚を磨き高める。		1			
地 歴 ・ 公 民 科	生徒の学力に応じた分かり易い授業展開する。	授業計画は都度都度見直して、生徒の実態に合わせて柔軟に変更する。		2	2	今年度不足した部分を洗い出し、目標の実現に向けてさらに努力する。
		授業終了後、指導内容・方法について点検し、改善すべき点を考える。		2		
	基礎学力の向上を推進する。	授業内容を基礎的・基本的事項に精選し、丁寧な解説を通じて確実に理解させる。		2	2	生徒の学力実態のより詳細な把握に努め、以て目標の実現を図る。
		レジュメを配布し、生徒本人が学習内容を反復学習しやすいようにする。		2		
		練習問題プリント等を利用した復習を行い、学習内容の定着を図る。		2		
		定期考査の前には総復習を行い、考査後は定着度の低い部分について再度解説して学習させる。		2		
		視聴覚教材の積極的な利用を通じて、ビジュアルな形での理解を図る。		1		
	生徒が学習内容をより具体的に把握できるように、授業方法の改善に努める。	教科内の相談を密にし、授業内容・方法について互いにアドバイスし合う。		2	2	授業方法・資料作成等について教科での研修機会を増やし、更なる研究を進める。
		様々な機会を利用して自己研修に努め、その成果は教科会で互いに情報交換する。		1		
		年数回、教科全員で学校内外での研修会を企画し実施する。		2		
数 学 科	基礎学力の定着を図る。	基礎学力検査を利用して、理解度を把握し、不十分な生徒へは補習等を実施する。		2	2	今後も基礎学力検査の結果を有効に活用し、学力の底上げを図る。 チームティーチングによる個別指導や習熟度別指導などを通して、生徒一人一人の学力を考慮したきめ細かい指導を心がける。 数学検定の定期的な実施と受験者数の増加に努める。
		1クラスの人数が少ないことを利用して、机間指導を増やし個に応じた対応を心がける。		1		
	数学が分かる喜びを実感する授業への取り組みに努める。	提出物の機会を増やし、こまめに生徒の学習状況を把握するよう努める。		2		
		チームティーチングの授業においては、2人の教師の連携を密にし、協力して授業を実施する。		1		
理 科	知的的好奇心や探究心を喚起し、自然に関する興味・関心を養う。	授業の展開に創意工夫をこらし、魅力ある教科指導に努める。		1	2	観察・実験の充実を図り、生徒が自分の意見や考えを発表する機会の充実を図る。 実験器具や資料の充実を図る。
	科学的に自然を調べる方法や技術を身に付け、問題解決能力を養う。	観察・実験を適切な時期に行い、かつ事前指導や考察の時間を十分に取るようにする。		2		
		生徒が自分の意見や考えを検証したり、発表したりできる機会を適宜設ける。		2		
	自然に関わる基礎基本的な知識を身に付け、科学的な自然観を育成する。	重要事項をおさえ、必要に応じて反復練習や小テストを取り入れ、基礎基本の徹底を図る。		2		
		基礎基本から、自然を統合的にみる見方や科学的なものの見方を養えるよう、分かりやすく授業を展開する。		1		
判 定 基 準	1：大変良くできた 2：良くできた 3：やや不十分 4：不十分					

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	番号	評価	次 年 度 (学 期) へ の 主 な 課 題	
英 語 科	基礎的な能力を養う。	生徒が情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な言語の使用場面を設定し、場面や目的に応じて適切に反応できる授業を目指す。		2	2 チームティーチングによる個別指導を継続し、また教材の工夫すること等で、今後とも生徒一人一人の理解度に応じたきめ細かい指導を実践できるように努める。 ALTとのチームティーチングを継続的に実施することで、生徒が英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を定着させるよう努める。	
	効果的なALTの活用。	ALTと協力し、アイデアを出し合いながら実践的コミュニケーション能力の育成を目指した授業を行う。		1		
	チームティーチングの充実。	チームティーチングにより、生徒一人一人のきめ細かな指導が出来る授業作りを目指す。また、教師相互間の連携がスムーズに取れるよう工夫する。		2		
家 庭 科	家庭生活へ積極的に参加する意欲・関心を養う。	社会の最小単位である「家庭」について興味・関心をもたせる。		2	2 実験・実習を多く取り上げ、基礎的技術や知識の向上を図れるように努める。 生徒の生活力を高めることができるよう努める。	
		高齢期を自分の一生の問題として考えることができるとともに、同時代を生きる高齢者との交流が図れるように、高齢者の生活、高齢者の介護についての基礎的な知識を習得させる。		3		
		子供を持つことの意義を考えることができるとともに、子どもの心身の発達、乳幼児の基本的な生活課題、子どもの保育、児童福祉についての基礎的な知識を習得させる。		1		
	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	実験・実習を通して衣生活・食生活・保育などの基礎的な知識・技術を習得させる。		1		1
	家庭経営の立場から家庭生活の充実向上を図る能力を育てる。	消費生活・住生活などに関する基礎的な知識を習得させ、一人の家庭人・社会人として自立した生活が送れるように指導する。 一人一人の消費行動が、資源・環境問題と大きく関わりのあることを理解させる。		2 2		2
保 健 体 育 科	基礎体力の向上を図る。	基本的トレーニングを授業の中に取り入れる。		1	1 生徒の運動能力の差が大きく、習熟度別指導が必要であるが、その体制が満たされていない。	
		球技等において、全員が体を動かせる時間を出来るだけ多く取る。		1		
	集団行動の充実を図る。	集合、整列、挨拶等の徹底して指導する。		3		3
	基本的生活習慣の確立。	保健の授業において、健康についての知識を学び、自ら実践できるように指導する。		1		1
芸 術 科	基礎学力の向上を図る。	生徒一人一人の能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫を行う。		2	1 2 1 1 実用書の手本の充実を図り、実習時間を確保する。 創作の多様性とその可能性への理解を深める。 検定合格率アップを図る学習時間を確保する。	
		生徒が自主的に取り組む指導を図る。		1		
	感性と技術の向上を図る。	芸術における基礎・基本を身に付けさせ、感性を育てる。		2		2
	魅力的な授業の展開を図る。	生徒を引きつける魅力的な授業の展開を図る。		1		1
情 報 科	情報活用の実践力を高める。	中学校での学習の程度を踏まえ、生徒のレベルに合った指導を行う。		1	1 2 1 2 新しい機能や技術を身に付けさせると同時に、一般的なアプリケーションソフトを操作するための基本的な知識と技術も身につけさせたい。 情報モラルの更なる育成を目指したい。	
		基本的知識（リテラシー）を身に付けさせる。		1		
		情報通信ネットワークなどを活用した実習を積極的に取り入れる。		2		
	情報を科学的に理解させる。	情報技術の進展に対応して、授業内容を適宜見直す。		1		1
情報社会に参画する態度を育成する。	情報モラルの育成を目指す。		2	2		
普 通 科	創意と工夫を加えた学習指導により基礎学習の向上に努めるとともに、一般教養を高めることに重点を置き、さらに進路指導を重視し、責任ある民主的な社会人を養成する。	基礎的・基本的事項を踏まえたユニークな授業の展開。		2	2 時代の流れに沿った学習指導の展開が臨まれる。 将来の目標をより明確に持たせる指導。	
		一般社会人として恥ずかしくないだけの最低限度の教養を身に付けさせる。		2		
		進路教育と結びつきを深めた学習内容の展開。		2		
		生徒の個性や能力に応じた学習指導の展開。		2		
園 芸 科	園芸作物の栽培・加工及び幅広い活用に関する知識と技術を習得させる。	プロジェクト学習を充実し、学校農業クラブ活動を強化する。		2	2 更なる指導の充実を図る。	
		施設設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用を図る。		2		
	農業経営者及び食品、ヒューマンサービスなど農業関連業務に従事する者として必要な能力と態度を養う。	体験学習や資格取得を通して、勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。		2		
緑 地 土 木 科	自然環境の保全や地域開発に関する知識と技術を習得させる。	自然環境の保全の必要性と地域開発の大切さを考えさせる。		2	2 環境学習の発展としての環境保全と地域の開発・発展をからめながら考える姿勢をもたせたい。	
	造園に関する知識と技術を習得させる。	造園の歴史や諸外国の庭園の特徴を習得させる。		2	2 造園の歴史を学び、世界の庭園を俯瞰しながら、基礎的技術の習熟を図りたい。	
		技能中心科目では実習中心におこない、基本的な技能を習得させる。		2		
	土木に関わる業務に従事する者としての必要な能力と態度を養う。	距離測量や平板測量などの基本的な技能を習得させる。		2	2 基本技術を大切に、実験・実習の比重を高めたい。	
		実験や実習中心をにして実践的な内容で実技が展開できるようにする。		2		
	造園に関わる業務に従事する者としての必要な能力と態度を養う。	トレース検定受検、橋梁などの模型作成を行い創造力を高める。		1	1 1 丁寧な造園技術を学び、完成度の高い庭園を目指したい。	
		造園コースでは技能検定3級造園の学習に取り組みせる。		1		
		技能検定3級造園の実技に取り組みせる。また卒業庭園製作に取り組む。		1		
	体験学習や資格取得をととして、勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。	建設現場見学会により、建設業の魅力や役割を知る一助とする。		2	2 資格試験の希望者の増加に力を入れる。	
		現場実習を通して、望ましい勤労観を養う。		2		
資格取得を推進し、日頃の学習を充実させ、将来に対して自信を持たせる。 建設業界の講話などを聞かせ、将来に対しての見通しと自信を持たせる。			3 3			
施設・設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用をはかる。	基本的な知識や技能を身につけさせるため施設設備を整える。		2	2 系列のための設備等の充実を図る。		
	環境関連、CADなどの施設設備を充実させる。		3			
	実験実習が適切に行えるよう、実験器具機械などの整備に努める。		2			
判定基準	1：大変良くできた 2：良くできた 3：やや不十分 4：不十分					

平成18～19年度の自己評価表については、URL (http://www.sashima-h.ed.jp/h_nendojikohyoukahyou.pdf) の 部分の 数字を変えてご覧下さい。